学んだこと伝えていきたい

「広島平和の旅」参加の中学生 市役所で報告会

茅野

茅野市は28日、市非核平和事業の一環で「広島平和の旅」（5～7日、広島県）に派遣した市内4中学校2年生8人（引率教員1人、市職員2人）による報告会を市役所で開いた。生徒らは出発前に決意表明をした通りに自身の目と耳で確かめ、学び得たことを今井敦市長や山田利幸教育長らに伝えた。

平和の旅では、平和記念式典参列、原爆被害者証言のつどい出席、平和への願いを込めた灯籠流し、茅野市内中学生と市民が作った千羽鶴献鶴（9000羽）、平和資料館見学などを行ったほか、厳島神社などの見学も行った。

生徒は「広島の印象は平和そのものだったが、本当に79年前に原爆が落ちたことを思い知らされた」「戦争という過去を忘れずに、今の生活に感謝し、学んだことを伝えていきたい」「式典で小学生代表が言った『祈るだけでは平和は訪れない』が心に響いた」「私にできることを精いっぱいやっていきたい」「平和であることや命の尊さを改めて実感した」「被爆者がなぜ生きる希望を失わなかったかを知ることができた。これからは生きる意味を考えながら生活していきたい」などと発表した。

今井市長は「またひとつ成長してくれてうれしい」とし、「戦争の解決策はいまだに見つかっていない。コロナ禍の人を排除するような雰囲気が戦争につながるようにも感じる。平和を守るには勇気が必要。この経験を今後の人生に生かして」と期待した。

参加者には、思い出の写真

な学びを積み重ね成長した中学生。思い
まったフォトブックを手に笑顔を浮かべる